

《資料館便り》

平成 26 (2014) 年

11月号



石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974)年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館
歴史民俗資料館長 三森孝則
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

学校古書からも新事実！

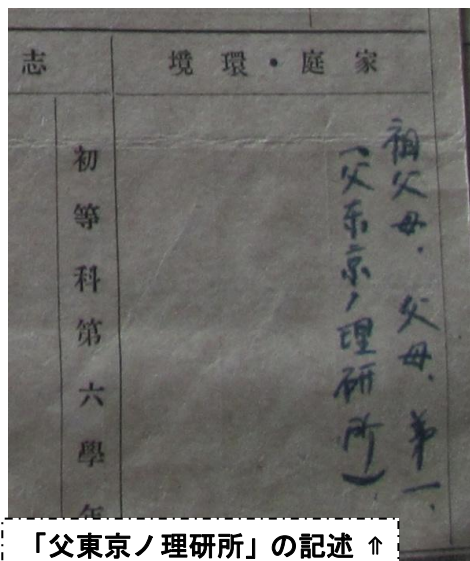
○昨年発刊された、石川町教育委員会発行・歴史民俗資料館編集の『ペグマタイトの記憶』(第37回福島民報出版文化賞特別賞受賞)は、明治時代からの石川地方の鉱山史、希元素鉱物研究史、戦時中の「二号研究」(陸軍による原子爆弾開発研究)とのかかわりを中心に、石川の鉱物をめぐる人々のさまざまな活動を当時の文書や記録、日記や写真をもとに著した本で、各方面から非常に高い評価を頂戴しました。



↑ 古書類調査の様子

この編集にあたっては、戦時中石川町高田に移転して来た理化学研究所(理研)飯盛研究室の主宰である飯盛里安博士(二号研究原料調達を担当した放射化学の第一人者)の御子孫から、貴重な当時の資料を多数寄せていただきました。その解析は、現在も橋本悦雄氏(石川町文化財保護審議会委員)が中心になって行っており、発刊後も新しい事実が次々と見つかっています。

○ところで、現在調査を進めている町内小中学校の統合にともなう、学校所蔵「古書類調査」でも、この戦時中の理研移転にかかわる事実が新たに確認されました。



「父東京ノ理研所」の記述 ↑

東京から幹部と工員が合せて 30 名以上が来町したのですが、このことを具体的に記した資料が出て来ました。これらの人々の中には、家族を伴っての赴任者もあり、ある幹部役員の子ども(当時の国民学校初等科三年生)の転校に関する書類が残されていたのです。

それによれば、この文書の日付は昭和 20 (1945) 年 4 月 19 日とな

っています。新年度開始(4月1日)早々の転校は、通常では考えられない事態です。親の転勤が事前に分かっていたら、転校は3月末日に行い、その子どもは4月1日からは新しい学校で生活を始めるのが当然のことです。

この理研の移転が、大戦末期、昭和 20 年の 3 月から 4 月にかけて、いかに切迫した中で慌ただしく実施されたかを物語る貴重な資料といえます。



← 「ペグマタイトの記憶」

古書類の梱包作業 ⇒

